

# 河川女子レポート

2022.11.22 TEAM YONESHIRO

ホタル子ちゃん

サクラ

きみまちこIII



## オイルフェンス設置訓練に 同行しました！



みなさんこんにちは！  
今回は11月2日（水）  
能代市二ツ井地区河川防  
災ステーション敷地内  
（道の駅ふたつ井川側）  
で行われたオイルフェ  
ンス設置訓練の様子をお伝  
えます！

この訓練は、米代川水系水質汚濁対策連絡協議会の事業の一環として、毎年暖房などによる灯油の需要期を前に、**油流出事故が発生**したとき油の拡散により被害が大きならないよう、回収する方法や技術を身につけるために行われています。

### 路面油回収訓練

水質事故の原因は、油の流出が約7割！

路面で拡散を防止し、回収することで、被害も最小限に食い止められ、かかる労力も費用も10分の1以下で済むそうです。

### 油処理剤について



油処理剤（中和剤）は、実際は油を細かい粒状にし、水中に分散するものだそうです。目には見えにくくなっているだけで、**油は残っているんですね(´\_`)**



油処理剤を使用したものと  
使用していないものの比較



これが油が細かくなっている状態。  
分散された油を水中の生き物が食べてしまったら…と心配です。  
そこで物理的に回収する必要があるんですね。



### 吸着材について



路面の油は吸着材で回収します。サラサラして油を吸着してもべとつきません。使用後は焼却処分物として処理します。



吸着剤で油を囲い、  
拡散を防ぐ

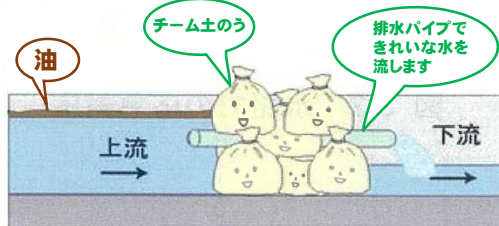
ブラシで油を吸着



## 小水路油流出防止訓練

小さな水路や側溝では土のう<sup>①</sup>とパイプ<sup>②</sup>が活躍します。「チーム土のう」が体を張って油が下流へ拡散するのを防ぎつつ、排水パイプとタグを組んで被害の拡大を防ぎます。

食用の油でも河川に流れ込んでしまうと、魚の住める水になるには流れた油の約20万倍の水が必要なんですって！



真横から見ると、このようになります。チーム土のう☆いい仕事してますね◎

## 吸着型フェンス設置訓練

川幅が小さい場所では吸着型オイルフェンスの出番です。きりたんぼの様な見た目ですが(〽)油を吸着する素材でできていて、せき止めと吸着の2つの働きで拡散を防止します。



下流側からフェンスを設置して油の流出を防止



水面に浮いた油は吸着マットで回収



油は水中で混ざりにくくて、コップ1杯の油で畳1000畳にも広がるんだって！その臭いや油膜は、少しでも多くの人に不快感を与えてしまうね



## オイルフェンス設置訓練(組立)

オイルフェンスを設置する場合は川幅に合わせて設置するため、1本1本をファスナーと固定金具で連結させ、必要な長さにします。1組の重量が50kg前後と重たいため、多くの人が必要となります。



川幅が大きい所ではオイルフェンスを船で設置することもあるんだって！油が流出した場所や被害の大きさに合わせて設置方法を決めるんですね



オイルフェンスの組立方を見学



いざ実践！！

### 編集後記

訓練を見学して、油事故が起きた時にどのような事が起きるのかを知ることが出来ました。参加された皆さま大変お疲れさまでした。これから冬本番に向けて、暖房等で灯油を使用する機会が増えますね。うっかりミスが大きな事故に繋がるかもしれません。油の取扱には充分気をつけて、きれいな河川を守りましょう！

